

## 第26回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年 4月 28日（木）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席13人
  - ・出席委員 荒木千恵子、大江宏(会長)、河本美代子、草苺正行、小林隆志、小林義明、佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、中澄子、藤生よし子、松井和夫
- 4 出席者
  - 事務局 浜三昭、内藤和男、澤田忍、荻原正樹、佐藤昌一、奥山尚、飯泉研、深井恭、飯高秀男、和田良英、高畑智一
  - J F Eエンジニアリング株式会社
  - パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 0人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 第25回市民検討会議事録の確認
  - (2) 第13回ふじみ衛生組合地元協議会について
  - (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 4 協議事項
  - 環境学習機能について
- 5 その他
- 6 閉会

**【配布資料】**

議事次第

【資料1】 第25回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

【資料2】 環境学習に関する各種資料の抜粋

【資料3】 環境学習機能についてこれまでの市民検討会の主な意見

【資料4】 見学者の状況

【資料5】 小学校副読本「わたしのたちの東京都」抜粋

【会議録】

午後7時 開会

1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

2 会長あいさつ

【会長挨拶】

3 報告事項

(1) 第25回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。あれば事務局の方へ連絡するように。

(2) 第13回ふじみ衛生組合地元協議会について

【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

H 委員 : 隣の青果市場に、体育館をつくる話で、建屋の高さに等に関していろいろ話があったと聞いたのだが、詳しいことがわからないので教えてほしい。

『広報みたか』を配付し説明。

事務局 : 三鷹市の計画のため、わかる範囲で、広報に基づいて説明する。

ふじみ衛生組合の隣に「新川防災公園（仮称）と多機能複合施設」の整備が計画されている。

内容は非常に多岐にわたっているが、基本的には防災公園という形で、上部が公園になっているものが中心である。その下に、スポーツ施設等の複合施設が入るというつくりのものであり、現在、このような計画が三鷹市のほうで進行している。

ふじみ衛生組合の新ごみ処理施設は、なるべく地下水に配慮する

ということで、地下については、ピット部分が現在20メートルで、かなり深くなっているが、それ以外の部分は、コストの面、工期の面、それから環境の面という3つの視点から、7メートルになっている。

三鷹市の計画は、上部が、防災公園として活用できる形で計画されている。アリーナが地下に入るという形になっているため、その地下部分が大きくなる。ふじみとのバランスはどうか、ということを出委員は言っていると考えている。

H 委員 : このふじみ衛生組合の建設のときは、粘土層の保護と水脈の保護ということが言われていた。隣である旧青果市場の地下に関しての、その辺の配慮はどうか。

事務局 : ふじみの建設に関しては、環境と安全に徹底的に配慮する。地上も地下も大切な視点であるということが一つ。もう一つは工期の問題。絶対命題で、25年4月には完全に完成させなければいけないという工事の工期がある。それから金額の問題がある。ふじみ衛生組合では、この3つを総合的に判断をした。

建物の高さについては、民事調停をへて、28メートルで皆さまと協議させていただいた。

D委員は、地下の掘削深度、ふじみは7メートルしか掘れないと聞いていたが、隣の防災公園は12メートル掘るということについて強く疑問を持っている。

この点については、7メートルしか掘れないということではなく、水も大事な環境であるということで、影響が出ないようにすることが望ましいという結論とともに、工期の問題、それから金額の問題を含めて、ふじみは当時、総合的な判断をしっかりと進んできたというところである。

H 委員 : その状況によってころころ変わっていているというふうにはしか聞こえない。周辺住民に、青果市場はこう、ふじみはこうである。

と説明するべきだと思う。全然つじつまが合わないのではないかと。

会 長 : この問題は検討会直接の話ではない。ここで検討した原則、ある

いは説明が隣ではされなかった。しかし隣には隣の事情があったということである。ほかに意見はあるか。

J 委員 : D委員がいないところで、この話をしてもしょうがないと思う。私は、ふじみ衛生組合と三鷹市で、事業主体が違うということで理解をしている。

L 委員 : ごみピットで掘り下げる面積は比較的狭かった。それに対して今度のは8,000平方メートル、80メートル掛ける100メートルぐらいの広さで掘り下げる、これはかなり乱暴な話ではないかなど。

会 長 : ほかに意見はあるか。ここで討議する問題ではないと私も思うが、かかわりのない話ではない。さらに、後でD委員が出席した際に、どうしてもここが納得いかない、この委員会として何かアクションを起こせというご意見がもし出てくるようであれば、また討議する必要も出るかと思うが、この報告についての議論は打ち切りとしたい。

### (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

#### 【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

C 委員 : 現場はどんどん建設が進んでいる。会議をやる前に現場を簡単に見たいのだが。

事務局 : 6月5日、日曜日に工事現場の見学会を行う予定である。調布市5月5日の広報、三鷹市5月15日の広報に掲載をする予定である。本日配布した建設ニュース31号の裏にも、その記事が載っている。開催時間は、1回目が午前10時から11時、2回目が午後1時から2時、3回目が午後3時から4時。市民検討会終了後、希望があれば事務局のほうに連絡してほしい。

会 長 : 6月5日は、ちょうど世界環境デーでもあり、見学にはいい日かなと思う。

#### 4 議題

##### 環境学習機能について

###### 【事務局説明】

会 長 : 今回で大体、集約へ向けた、この会の意見が出尽くすことができればよいと思う。

B 委員 : 新ごみ処理施設は、限られた面積、建物の大きさのため、いかに効果的に、見学者に啓発、または理解をしてもらうかに重点が置かれなければならないと思う。

まず初めに、見学者に対して、どのようなイメージ・概念で、当施設はアピールしていくのか、短時間で、見学者が持っているごみのイメージ、ふだん持っているイメージを払拭して、新たな驚きを持ってこの施設を後にしてもらいたい。

そこで、1つは、初めにごみの排出、処分の仕組みを理解してもらう。工事の進捗状況から、携わる人たちの仕事や人数、運搬者の種類、台数、焼却炉の価格、月間・年間の維持費、1日、月間、年間の排出処分量など。

2つめ、ごみの有効活用。生活物資や環境資源に極めてごみは有効な資源、エネルギーであると。残渣、灰なども生活と密接に関係して使われている。また、発電量とか温水など熱エネルギーのアピールも有効である。

3つめ、グローバルな視点。石化資源の有限性があるわけであるから、それに気づかせる。リデュースの必要性や諸外国の発電量とか地球の温暖化に関係してくることを啓発する。

そして、最後に、工作体験学習などがあれば、特に小中学生に対しては、良い経験、啓発になるのではないかと。

一つのイメージ、概念を持って、新ごみ処理施設を自分が見学者になったつもりで考えてみた。

会 長 : いかに効果的に展示するか、コンセプトを明確にする。ごみに絞った上で、その仕組みが見える形で、次にごみの有効活用、あるいは地球規模の視点。最後には工作室的なところで実体験にもつなげ

られる。大変貴重な意見である。質問も含め、他に意見はあるか。

E 委員 : ごみの分別が一つの大きなキーポイントになるのではないかと思う。子供たちはとても敏感で、地域で活動していると、子供たちが一生懸命分別をしてくれる。

分別によってその品物が地球環境に優しく、それがどのように再利用されていくのかを示す。そこが焼却場の基本的なことであると考ええる。

会 長 : 他に意見はあるか。

F 委員 : 例えば、エネルギーの消費量が上がり、地球の気温が1度上がればどうなるか、5度上がればどうなるかという具体的なことを、絵などでわかりやすくし、CO<sub>2</sub>を減らすにはどうしたらいいかを具体性を持って学習できるような形が、子供たちは興味を持つのではないか。

展示の仕方も、ただ表として並べるだけでなく、視覚的にわかりやすく、ユニークなものに、見て楽しいものに工夫していけばよいと思う。

会 長 : 他に意見はあるか。

G 委員 : 確かに分別は必要だと思うのだが、ペットボトル、プラスチック製品は年々増えている。私が属している組織、生活クラブでは、リユースビンを使い、ほとんどプラスチック類は使わない、そういう活動をやっている。ペットボトルやプラスチック製品の再生にはCO<sub>2</sub>の発生が非常に大きいので、CO<sub>2</sub>削減を大きなテーマとしている。

リデュースが一番大事なのだが、ごみはどうしても出てしまう。それをリユースにすることによってプラスチックやペットボトルが減らせる。そういったことを次世代の人たちに理解できるようにしたい。

会 長 : 他に意見はあるか

I 委員 : 焼却するにはエネルギーが必要なので、ごみを減量する啓発を考えたい。それから今回の震災でわかったことだが、安全対策やい

ろいろなデータは正確なもの出す。そこをしっかりとしないと、市民から不信感を持たれてしまう。

会 長 : 他に意見はあるか。

A 委員 : 環境学習はこういうものをやろうといっても、だれが教えるのか、どうやって教えるのかというのが一番課題になってくると思う。

環境学習機能というのは、このごみ焼却場だけで受け持つのかという疑問もある。ごみ対策課もあるし、環境政策課もある。そういったところと十分打ち合わせした上でそれぞれの役割を決めてやっていかなければいけないのではないかなと思う。

環境問題はどれもみんな大事であるが、それをどうやって皆さんに教えるかというのが一番大事なことだと思う。見学者の来場者数、それから内訳を示してもらったが、ほとんど小学生で、ほかに大学生とか大人が団体で来ているのではないかなと思う。それらを踏まえ今後、見学者を受け入れるのに、団体で受け付けるのか、フリーにして、個人でもよいのか。

見学時間は1時間程度、それを考慮し見学者コースを作ったほうが良い。また、見学の仕方も人がつかなくてビデオとかパネルそれを見て帰るとか、環境に関する図書が置いてあり、そこで勉強できるのかなど、なかなか考えがまとまらないのだが。

それから、今後PR用のビデオをつくると思うが、小学生向け、大人向けとし、大人向けには少し難しく規制値とか、白煙について入れてはどうかと思っている。ビデオの中の一つとして、まちのど真ん中につくる場合にどういう点を配慮したかというところも入れてつくっていったらどうかと思う。事務局のほうでビデオをつくるに当たってどういう考え方があるか聞かせてほしい。

会 長 : 今までのところを振り返ると、啓発項目については、ごみ処理、環境問題となっている。そして、もう一つ、安全対策にかかわるところが出てきている。

A委員から、ビデオについても子供と大人を分けたほうが良いという意見も出た。確かに三鷹市のデータから、来場者は小学生がほ



とんどである。小中学生ではなくて、一般とか、あるいは一番欠けている中高大学生あたりも視野に入れるべきとか、いろんな意見が出てくるかと思うが、対象をどの辺に置くか、どういう対象をイメージしながらつくるべきか、事務局は今一生懸命悩んでいるところだと思う。皆様方からこの辺の対象も重点的に置けということの一つの大きなヒントになると思う。

ソフトについては、だれが一体そういうものも教えるんだ、そこも大事な視点で、DVDなり、あるいは映像的な機械設備を主体にするのか、大きな部屋でざっと見せるような形でいくのか、それとも人間がそこに立ち会って教えることをやるべきなのか、ぜひ意見を出して、事務局へのヒントにしてほしい。

そして、ハードについて、この辺があまり出ていないので、何か意見があれば出してほしい。

B 委員 : ソフトに関係したことであるが、今までの資料は、いかにごみが処理をされているのかということに非常に重点が置かれている。そして、これを理解することが第1のようなイメージを持つ。だけど、それを一つの踏み台にして、今後のごみの有効活用、有効な資源、エネルギーとしての活用、再利用、そういったものに可能性を持っているし、日本は開発しているのだと。そういうところにもっとウエートを置くことを希望している。図解して、いかに分別されて、効率的に処理をされて、処分されているのか、そこだけじゃないのだということも今後注意して啓発をしていったらと思う。

最後に、資料は簡潔に説明してあることがいいのではないと思っている。余裕を持たして、疑問を出して、見学者に発見をさせる。そういう手法があっていい。みずから発見をさせる。そのゆとりがあると良いのではないか。何でも最後まで読めばわかる100点満点の説明資料でなくていいのではと考えている。

当処理場は、エコセンターとしての機能を果たしていこうと大いに期待しているのだが、今後そのエコセンターとしての施設の活用も視野に入れたほうがいいと思う。見学者のみにとらわれない

で、エコという概念とか啓発は、日常、毎日毎時間あるわけで、このことの有効な啓発について、ビデオ、サークル活動、講演、それからNPOのコミュニケーション、そういった活動の場でもあるというふうにすると、100%この施設が生かされるのではないかと感じている。

会 長 : 他に意見はあるか。

H 委員 : DVDなどを作る時、無駄なお金の使い方をしないようにしてほしい。

C 委員 : ごみ処理場の稼働率を上げてではなく、なるべくここへ持ち込むごみを減らしてくださいと。せっかく作ったから多めに宣伝したいのだからけれども、ちょっと逆の矛盾というか、そういうものを抱えた問題があるのではないかと。

プラごみを一体どうしたらいいとかいう問題はこれからの検討課題なんじゃないかと。今回の展示だとか教育の問題じゃなく、プラスチックの処理の問題というのは我々がもっと考えていかなくてはいけない。全部燃しているところもある。それで、安全だという説もあるし、いや、そうではないという説もある。

それから、施設をつくと環境に配慮したというPRを聞くが、ダイオキシンの問題なんかについて、欧米の考え方と日本の考え方が違って、もっと欧米のほうが規制に対してシビアである。そういう問題を大丈夫、大丈夫とする傾向があるので、その辺は、安全なものはないんだということの強調も必要であろうと思う。

M 委員 : 先ほど会長のほうから、どの層にということ、委員からいろいろな意見が出ていたと思うのだが、資料の数字だけで見ると、大体中学生、小学生が大半。これは三鷹市も調布市も学校教育の中で小学生等々にいろんな勉強をさせたいという気持ちの中で、対象とされている。これはほかの市町村でも大体そうじゃないかなと感じている。そこで、先ほどA委員の意見のいろいろな手法、それからほかの委員の意見の手法などあると思うが、それはこれから先の話で手法を考えていくこととし、まず一番覚えることのできる若い年代層

に少しポイントを当てるというのもある。事務局のほうでも検討してもらい、我々も意見を出していければと思う。

副会長：ほかのいろいろな施設の啓発設備を見てきているが、やはり大人向けと子供向けをはっきり分けたほうがいいと思う。子供向けに関しては、質問形式、なぜ分別収集が必要か、ごみを燃やすと炭酸ガスがたくさん出るが地球温暖化に対して問題ないのか、そういう質問を投げかけるような、相手に考えさせる。これはB委員も提案していたように考えさせる形の中で答えを出す形が非常に効果的ではないかと思う。資料2の「絵コロジ」は、京都大学の高月先生、今ほかの大学へ行かれているようだが、この方がごみの処理にかかわるもの、ごみを起点としてエネルギー問題や食の安全、地球全体にかかわる事柄などを、約千枚も漫画で描いている。この絵を子供に見せると、やはり考えさせられると思う。すぐには答えがわからないかもしれないが、説明者がこれに補足的に話をしてやるという形で、あるいは、説明する中で新たにデータを出してやるという形ですと、非常に教育効果があるのではないか。この高月先生の漫画の原画が全部展示してある展示場が京都にある。先生の考えで、教育のためなら無償で活用できるようである。

B委員が提案したように、ふじみのごみ処理施設を中心に据えて、ごみ焼却施設でごみがどうやって焼却されているのか、焼却する際の公害問題はどういうふうにして防止対策がされているのか、あるいは燃やしたときの熱をどうやって回収して発電して熱利用しているのか、発展的には、ごみを燃やすと炭酸ガスが出るからそういう点でなぜ地球温暖化に対して影響がないのか、かえって発電して電気を売れば何か地球温暖化に対してプラスになっている、いい影響が出ているのだということ自体までの説明に発展していくと思う。

なぜリサイクルするのかということとは、資源問題と非常に密着している。石油はあと40年たつとなくなるとか、天然ガスも60年、ウラニウムは80年、石炭だけが120年あるが、孫の代になると、石油はもうなくなる、かなり厳しい状況になってきている。金属資

源を見ると、亜鉛、鉛、スズ、銅なんか二、三十年でいい鉱石がなくなる。こういった状況の中にある。だから資源循環型社会をつくっていかなくてはならないことを。また、子供たちに、将来はそんなに安心できるものでもない、資源小国の日本がどう生き延びていったらいいかを投げかけないといけないと思う。

H 委員 : 本来、ごみをつくらない、出さない、燃やさないということが一方であるべきだと思う。けども、焼却場をつくるということが前提であることに、その中で環境学習となると非常に相矛盾するところを感じる。

会 長 : その辺、ふじみらしさをどう出すかということだと思う。新しい施設をつくった現場だからこそ未来志向で課題の解決、例えばリデュースが大事だとか、そういうところへつなげていけるものを出せればというご意見が出ていたように受けとめている。

A 委員 : 副会長の話にあるテキストをだれがつくるのか。市のほうで作ってもらい、環境学習設備のところに置いて、皆さんに見てもらおうということか、その辺の一番基本的なことを議論しないと、私に環境学習の先生をやれといわれても、少しはできてもそんなにできるほどでもないし、それではどうしたらいいか、それが非常に悩ましいところである。

ここで議論する場合に、だれが教えるのか、それをどういうふうに教えるのかという議論までやるのか不明だが、その辺を明確にしておかないと、収集がつかなくなる気がする。テーマの整理をしてほしいのだが。

副 会 長 : 国は、自然共生社会、低炭素社会、それから循環型社会。この3つの社会によって持続可能な人類が生き延びていける社会をつくらうとしている。

A 委員 : それはわかっているのだが、だれが教えるのか、だれにだれが教えるのかということが問題だと思う。

副 会 長 : だれが教えるのかという問題、確かに課題である。それから、先ほどH委員の意見で、徹底したリサイクルをすればごみなんか出て

こないんじゃないかとのことだが、いい紙は確かに古紙で出せば、一、二回紙になり、次に新聞紙に、次は繊維が短くなって、ちり紙にしか利用できない。結局リサイクルとは、ごみになって出てくる時間を延ばすことによって、できるだけごみの出る量を減らすという手法である。けれども、最後はやっぱりどうしても、地球上に生まれたものはすべてごみになってしまう。リサイクルして減量化に努めるが、それでも出てきたごみは処理せざるを得ないということで焼却施設がやはり必要になってきた。というところまで説明しないといけないと思う。今までそういう説明が十分なされてないと思う。

もう一つ、これは私の個人的な感覚だが、ロハスとかと言って、極力シンプルな生活をして、あまり無駄なものを使わない、無駄なものは買わないということがある。これは経済成長、景気のためにはあまりよくないかもしれないが、資源小国の日本は、世界に先駆けて、文化水準は下げないけれど、資源をできるだけ使わない、エネルギーを世界一使わない、そういう生活スタイルを打ち立てれば、世界のトップになれると思う。今、アメリカは1ドルの国民所得を上げるために、日本の3倍のエネルギーを使っている。中国は5倍から8倍使っていると言われている。

E 委員 : ごみ問題は、そんな固く考える必要ないと思う。親子で家庭内でしっかりとごみ問題を考えていけば、必然的に環境にも結びつくし、それから分別も親子でやればきちっとできる。物を買うにしても、子供はどういう買い方をしているか、親はどういう買い方をしているか、そういうことを家庭の中である程度知っておく必要があると思う。堅苦しく考えないで、例えば今度新しい焼却場ができた、見学に来た、そこで1年生の子が来たときに、わかりやすくというのは確かに必要かもしれないが、楽しく学んでいく、1つでもそこへ入ったら頭に入れていく、これが大事なのではないか。5つ教えたから全部覚えていけというのでは、あそこに行くと何か堅苦しくて嫌だ、となってしまう。

それと、子供だけでなく、親子見学会も考えてはどうか、年に何回か企画してほしいと思う。

会 長 : 親子見学みたいなプログラムも大事だと思う。今日はコンセプト  
というか、啓発のところについていい意見が多く出ていた。これら  
をどう具体化するか、もう一工夫要るところである。次回、事務局  
より具体的なたたき台をもとに、どう前進させられるか考えていき  
たい。

#### 5 確認事項

【次回は、6月16日（木）の午後7時に開催】

#### 6 閉会

午後9時00分散会